

日本比較経営学会ニュース

No.10/2008.10.

発行: 日本比較経営学会事務局

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学 商学部 出見世研究室内

Tel/Fax: 03-3296-2262

e-mail: demise@kisc.meiji.ac.jp

日本比較経営学会公式サイト <http://www.soc.nii.ac.jp/jacsm/index.html>

<10号の主な内容>

- ・ 日本比較経営学会第34回全国大会について
- ・ 日本比較経営学会第34回全国大会の“Call For Paper”について
- ・ 東日本部会および西日本部会開催について

日本比較経営学会第34回大会

統一論題「グローバリゼーションの新段階と比較経営学の諸課題

－BRICsの台頭を巡って」

企画趣意書

第34回全国大会プログラム委員会

委員長 夏目啓二（龍谷大学）

20世紀末の社会主義体制の資本主義への転換を機に、WTO(世界貿易機関)を舞台にした世界の貿易と投資、サービス、交通の自由化と制度化が急速に進んだ。市場原理主義と新自由主義の思想がこれを推進した。この結果、21世紀の初頭までに世界各国の産業における競争条件や参入障壁は急速にフラット化し、多国籍企業が国境を越えて激しい競争と企業統合(M&A)を繰り返すようになった。グローバリゼーションは、メガコンペティションの幕開けであった。しかし、グローバリゼーションは、同時に、地球規模で環境問題、労働問題、人権問題、雇用問題、所得格差問題などを引き起こし、これらの問題解決のために国際的なNGOやNPOの運動が展開され、また、国連がグローバル・ガバナンスやグローバル・コンパクトを提起するなど、新たな局面を迎えている。また、グローバリゼーションが進展するなか、中国をはじめ、インド、ブラジル、ロシアのBRICsと呼ばれる新興経済諸国が台頭してきた。これら新興経済諸国は、スポーツ、文化、消費生活のみならず、政治、経済、企業経営の面で世界に大きな影響を及ぼす存在となってきた。サブプライムローンの破綻とそれに次ぐ投機マネーによる原油価格や食糧価格の高騰で苦しむアメリカをはじめ先進諸国経済が、景気後退を余儀なくされているにもかかわらず、新興経済諸国は、高い経済成長を維持してきた。BRICs諸国は、今や世界の経済成長の「機関車」とまでもはやされるようになった。しかし反面で、これら新興経済諸国は、中国での所得格差の問題やチベットの自治権確立運動の広がり、インドでのヒンズー政権に反発するイスラム原理主義のテロ活動、ロシアのグルジアへの軍事介入など、治安と政治的な不安定さも伴っている。

今日、BRICsが、21世紀になって急速に経済成長したのはなぜか、その世界経済への影響はなにか、新興経済諸国がかかえる課題はなにか、を巡って議論がなされている。トーマス・フリードマンの『フラット化する世界』の議論もその一つである。

日本比較経営学会は、第30回全国大会以来、比較経営学の方法とはなにか、を問題意識に議論してきた。この問いにアプローチするために「企業と社会」「企業の社会的責任」「コーポレート・ガバナンス」「資本主義の多様性」のテーマを深めてきた。その成果が、日本比較経営学会編『会社と社会』(文理閣、2006)である。日本比較経営学会は、今後、「グローバリゼーションの新段階と比較経営学の諸課題」の統一論題のもとに、これまでのテーマの議論を引き続き深めることとした。そこで、第34回全国大会では、比較経営学はBRICsの台頭をどのようにとらえ、どのように向き合うか、を課題とした。比較経営学的方法的視点からBRICsの台頭をどのように見るのかをテーマとした所以である。

日本比較経営学会 第34回全国大会の開催について

第34回全国大会実行委員会

委員長 村上 了太 (沖縄国際大学)

日本比較経営学会第34回全国大会が2009年5月22日から24日にかけての3日間、沖縄国際大学で開催されることになりました。まず開催校としてご挨拶申し上げます。

本学は、沖縄県の中部にあたる宜野湾市(ぎのわんし)に位置しており、本県が本土復帰を果たした1972年に設立されました。2008年5月現在で4学部10学科から構成され、約5,670人の学部学生が在籍しております。他には大学院が3研究科(修士課程のみ)あります。米軍海兵隊の普天間飛行場に隣接しており、軍用機の離発着や軍用車の往来も目の当たりにすることができます。詳細は本学や地方自治体のウェブサイトや出版物などをご覧ください。

さて本大会の統一論題は「グローバリゼーションの新段階と比較経営学の諸課題—BRICsの台頭を巡って」です。折しも2008年には北京オリンピックが開催され、中国の経済発展は幾多の問題を抱えつつも世界経済への影響力を増大させております。同様にロシアもその大国およびかつてのソ連時代の盟邦とともに、埋蔵する資源を糧にその役割の大きさを感じさせるところであります。そして周知の通り、米国におけるサブプライムローン・ショックおよび金融機関の経営危機と破綻および日本企業による地域事業会社の買収など、相次ぐ金融不安が世界経済を震撼させるとともに、時には金融業界の逞しささえ覚えるところでもあります。

米国・ヨーロッパそして日本のみならずBRICsやVISTAへの、そして当街地域の経済発展も見られるように、比較経営学の果たす役割は今後ともその重みを増していくものと思われれます。比較の意味・意義・目的などの基礎部分をふまえ、グローバル化による比較対象の複雑化・多様化も見逃せません。さらに同時並行で生じているさまざまな問題が内包されています。企業社会の高度化・複雑化が進行するとともに、こうした時代の潮流をかんがみても日本比較経営学会の社会的責任が問われるところでしょう。

さて、今回は沖縄での開催ということでもありますが、2008年には台湾産マンゴーやフィリピン産海ぶどうを、いずれも沖縄県産と偽装して出荷していたことが発覚し、一部では逮捕者まで出す

ほどの事件となりました。こうした事態をかんがみ沖縄経済の基幹でもある食品加工業を主に考えていく「食」に関するセッションの設置を予定しています。このセッションの目的は沖縄という地域限定の事例をふまえつつ、食品偽装に関する諸問題を考えていくことです。グローバルゼーションとの関連性を考えるわけですが、現場の声を取り入れることにより、偽装問題の核心部分に迫っていく予定です。ただしこの文書を作成している時点(2008年9月)での構想でありますし、大会当日は幾分かもしくは大幅に変更されている可能性があることを付言しておきます。

最後に全県が海洋性亜熱帯気候である沖縄では、5月の大型連休前後から6月下旬にかけての季節が梅雨の時期となります。大会開催時は、ねっとりとした蒸し暑ささえ感じるものと予想されますし、南国に降り注ぐ大粒の雨も一度はご覧いただけるかと思えます。なにぶん至らぬことばかりではございますが、どうか皆様方のご参加をお待ち申し上げます。

開催日：2009年5月22日(金)・23日(土)・24日(日)

開催校：沖縄国際大学(<http://www.okiu.ac.jp>)

日本比較経営学会第34回全国大会「自由論題」・「院生セッション」
“Call For Paper”

「院生セッション」と「自由論題」の公募を下記の要領に従い行います。

「自由論題」、「院生セッション」での報告を希望する会員は、2008年11月26日(水)までに、①氏名、②住所、③電話番号、④所属、⑤報告タイトル、⑥報告要旨(400字以内)を日本比較経営学会事務局までE-mail(やむを得ない場合はFAXまたは郵送)でお知らせください。

日本比較経営学会事務局
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学 商学部 出見世研究室内
Tel/Fax: 03-3296-2262
e-mail: demise@kisc.meiji.ac.jp

日本比較経営学会第34回全国大会「自由論題」セッション企画募集について
自由論題セッションの企画も募集しております。セッション企画をお考えの会員は、
ぜひ事務局までお知らせください。

日本比較経営学会事務局
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学 商学部 出見世研究室内
Tel/Fax: 03-3296-2262
e-mail: demise@kisc.meiji.ac.jp

東日本部会および西日本部会開催について

東日本部会は、2008年12月6日（土）午後2により中央大学市ヶ谷校舎（地下鉄都営新宿線の曙橋駅）内のエクステンションセンターにて、開催されます。また、西日本部会については、2008年12月6日（土）に龍谷大学にて開催を予定しています。報告者等の詳細につきましては、別途ハガキにてご案内いたします。